

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	心理学プログラム

履修プログラム(必修科目)	プログラムのコア科目(必修科目)
---------------	------------------

KUS(金沢大学)の「グローバル・スタンダード」を踏まえ、人文学域で実用化されるべき能力と教員を以て新たな情報や価値を創出する社会に貢献できる学生に学ぶべき内容を授ける。

① 豊かな表現力(読解力)を身に付ける。人間性と社会性に関する教養を有し、常に社会的責任を持ち続け、人間と社会、環境をめぐる諸問題を自ら発見することができる。(≪KUS1.5に対応≫)

② 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容、文献読解にとどまらぬ人間的方法を、系統立てて理解・習熟し、説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的な解決に活用できる能力を身に付けることができる。(≪KUS1.2.5に対応≫)

③ 高度な自己学習能力
多様な情報、文献、資料の中から必要なものを適切に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力を高い次元で身に付けることができる。(≪KUS3.0に対応≫)

④ 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って、異なる文化や伝統をもつ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語を外語種を用いて論議を執る他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(≪KUS4.0に対応≫)

履修プログラムのCP(カリキュラム)編成方針	プログラムの学習成果(①-④)を達成するために履修することが求められる科目、①-④学習成果を達成するために履修することが求められる科目、①-④学習成果を達成するために履修することが求められる科目
------------------------	---

① 学芸員養成課程を通じて、以下のような教育目標の達成と実践の場を確保する。

1. 学生が基礎知識を身につけ、KUSの認定した科目を履修し、学生が基礎知識を身につけ、また、G5資格(英語)のみならず、必ず教育実習と合わせて履修することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(≪DP1≫)

2. 1年次から「人間社会学域の科目」として履修し、前年では「心理学」で履修した「心理学」の科目を履修し、文化理解、異文化理解、異文化コミュニケーション能力を身に付ける。(≪DP12≫)

3. 実習においては、1年次でのG5科目の履修を前提として2年次で学域のG5科目を履修し、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、積極的に英語教育の場を確保する。(≪DP4≫)

② 専門科目は、講義科目と演習・実習科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、読解など学生の能動的・主体的な授業参加を促すとともに双方向の授業を進めることで、専門知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養う。(≪DP3.4≫)

③ 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を履修し卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで履修してきた基礎知識と専門知識を凝縮し、学生自身が課題テーマを設定し、テーマ資料・史料等を収集、分析、整理し、自己の見解を明確かつ論理的に表現している能力の養成ができたかどうかを最終的に評価するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の根拠に加えて批評・批判・議論に自ら参加し対応できる能力も評価される。

④ プログラムの学び

2年次には、心理学分野全般を概観する基礎的科目及び心理学研究の基本的考え方や基礎技術を習得するための実験を中心とした科目と心理学統計法に関する基礎的科目を履修し、3年次には、さらに高度な実験技法や研究方法を学ぶための科目を履修し、さらに、自分の関心に基づいて実験や調査を行いレポートまとめる科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめ、これらに加え、2-4年次には、心理学領域の基礎知識や最新トピックなどを講義および演習を通じて学ぶ。

プログラムのカリキュラム

履修科目	科目名	履修の要件	単位数	Q1	Q2	Q3	Q4		
11065	社会情報学A	「人間行動や社会集団の特性を、具体的な情報を用いて理解し、その理解に基づいて把握する方法を学ぶ。」	1~4	*					○
11066	社会情報学B	「人間行動や社会集団の特性を、具体的な情報を用いて理解し、その理解に基づいて把握する方法を習得する。」	1~4		*				○
11067	ジェンダーと社会A	「現代社会におけるジェンダー平等の意義と課題について学ぶ。ジェンダーの観点から課題の構造や課題解決のアプローチについて理解できるようにする。」	1~4			*			○
11068	ジェンダーと社会B	「多様な性と関連する諸課題について学ぶ。ダイバーシティとインクルージョン(多様な性の視点)の観点から課題の構造や課題解決の方法について理解する。」	1~4				*		○
42621	知覚・認知心理学A	「知覚に関する諸現象、記憶に関する諸現象、その仕組みと心理過程における役割を理解する。」	2-4						◎
42622	知覚・認知心理学B	「知覚に関する諸現象や基礎知識を学び、認知過程と心理過程の特性を理解する。」	2-4						◎
42623	学習・言語心理学A	「学習に関する諸現象や基礎知識を学び、学習過程と心理過程の特性を理解する。」	2-4						◎
42624	学習・言語心理学B	「学習に関する諸現象や基礎知識を学び、学習過程と心理過程の特性を理解する。」	2-4						◎
42625	感情・人格心理学A	「人格心理学に関する諸現象や基礎知識を学び、人格形成の過程と心理過程の特性を理解する。」	2-4						◎
42626	感情・人格心理学B	「感情・人格心理学に関する諸現象や基礎知識を学び、人格形成の過程と心理過程の特性を理解する。」	2-4						◎
41475	古代文明論	「世界各所の古代文明の成り立ち、発展の過程について、考古資料、建築資料、言語資料、文字資料などを駆使して研究する方法を学ぶ。」	2年		*				○
11069	北陸の考古学	「北陸地方の主要な史跡について学び、考古学的に北陸の歴史を復元できるようにする。」	2年		*				○
11070	宗教学概論	「おもに、キリスト教・仏教の宗派について、それぞれの基本的な教義、歴史の発展、それらを生み出す文化・社会的背景に関する知識を習得する。」	2年		*				○
11071	イメージを読み解く	「人間がこれまでに生み出したさまざまなイメージを、その文化的・社会的・地域・時代に応じた背景や文脈の観点から、体系的に理解し、その意義を考察する。」	2年		*				○
11072	グローバルとローカル	「グローバルとローカルな視点で歴史を考察する力を養う。」	2	*					○
11076	歴史学と現在1	「戦後日本(高度経済成長期以降)の歴史学を学ぶことを通じて、歴史学の存在意義を理解する。」	1						○
11079	歴史学と現在2	「戦後日本(高度経済成長期以降)の歴史学を学ぶことを通じて、歴史学の存在意義を理解する。」	1						○
41976	日本語学講義1	「日本語の言語構造について、個別の語彙の形成過程、その基本的な特性を理解する。」	2.34	(*)	(*)	*	(*)		
11073	日本の物語と語り	「日本文化を表現する物語や伝説のなかから、そのなかで登場人物の行動や思考の共通点を取り上げて議論できるようにする。」	2.34	(*)	(*)	*	(*)		○
11074	日本文学の近代	「近代文学と社会の関係に注意を払い、論理的な理解ができる。重要な論点に注意を払い、注釈的理解ができる。日本近代の文学について知識を深めることができる。」	2.34	*	(*)	(*)	(*)		○
11075	日本文学とメディア	「近代文学と社会の関係に注意を払い、論理的な理解ができる。重要な論点に注意を払い、注釈的理解ができる。社会の問題について知識を深めることができる。」	2.34	*		*			○
11076	中国の言語文化A	「中国の言語と文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。」	2			*			○
11077	中国の言語文化B	「中国の言語と文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。」	2				*		○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	心理学プログラム

履修プログラムのポリシー(学位授与方針)	プログラムのポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(全学大方向「グローバル・スタンダード」)を踏まえ、人文学部で培った能力と資力を新たな価値や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <p>1. 豊かな職業と職業倫理能力 人間性と社会性に富み豊かな職業を有し、知的的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(≪KUGS1.5に对应≫)</p> <p>2. 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文理融合にとどまらない人間の方法を、系統立てて理解・習熟し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的な解決に貢献(建設的)に取り組んでいけることができる。(≪KUGS1.2.3に对应≫)</p> <p>3. 豊かな職業と職業倫理能力 多様な情報、文脈、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論議構成能力(≪次年度履修力(自己学習の力)の育成)に資することができる。(≪KUGS3に对应≫)</p> <p>4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統をもつ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有し、日本語そして外国語を用いて議論を執る他者と柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(≪KUGS4に对应≫)</p>	<p>心理学プログラムは、人間の行動・認知・思考、感情・意志・文化・育因について考究する人文学の発展を旨とし、専門とする心理学プログラムの専門知識を有し、さらには人文学の総合的・学際的視野を持つ人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学部のディプロマ・ポリシーに拠って学習成果を上げたために、以下のような心理学プログラムの学習成果を上げた者とする。</p>

学習プログラムのOPカリキュラム編成方針	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学習目的】 OPにかける能力と資力の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。</p> <p>1. 学生履修4年間で、KUGSの対応したG科目や導入科目を体系的に履修して、学生履修教育の基盤となる幅広い豊かな職業を身につける。また、G5資格科目(英語)のみならず、必ず教育資格科目と以上を選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(≪OP1≫)</p> <p>2. 1年次より人間社会学域のG科目及び人文学基礎科目を履修し、前年では大学・学部論、シスター論、文化概説、文学概説、異文化理解、法政基礎論、地域経済学、金融リテラシー等、人文学、社会科学の基礎的知識を、後年では人文学の基本的研究内容、研究方法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く修得し、人間社会学域および人文学域での専門教育における基礎的教養を身につける。(≪OP1.2≫)</p> <p>3. 英語については、1年次でのG5英語科目の履修を踏まえて2年次で学域の英語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、積極的に英語理解力の向上を図る。(≪OP4≫)</p> <p>4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、課題など学生の能動的・主体的な授業参加を促るとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加え、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(≪OP3.4≫)</p> <p>5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通して卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで履修してきた基礎的教養と専門教育における専攻領域の知識に加え、学生自身が課題テーマを設定し、テーマ資料・史料等を収集、分析、整理し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現している能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて討議・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。</p> <p>【プログラムの方針】 2年次には、心理学分野全般を概観する基礎的科目及び心理学研究の基本的考え方や基礎技術を習得するための実験を中心とした科目や心理統計法に関する講義科目を学ぶ。3年次には、さらに高度な実験技法や統計法を修得するための科目を学び、さらに、自分の関心に基づいて実験や調査を行い、レポートまとめる科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめ、これらに加え、2～4年次には、心理学領域の基礎知識や最新トピックなどを講義および演習を通じて学ぶ。</p>	<p>人や動物の心理的現象について、科学的理解をすることができ、 実験や調査を通して、人や動物の行動を客観的・計量的に理解することができる。 仮定的な測定法を用いて、人間や動物の行動を客観的に理解する基礎を身につける。 自ら課題を設定し、実行計画を立案し、先行研究を調査し、理論を構築し、それを分析して報告することができる。 先行研究で書かれた資料の先行研究を調査し、理論を構築し、それを分析して報告することができる。 実験や調査によるデータ収集と分析、観察した結果を客観的に記述し、口頭発表や発表報告を行うことができる。 心理学の基礎知識を理解し、基礎知識を習得する。さらには、大学院での専門的知識への発展を促すことができる。 専門的知識の獲得と、実践力や応用能力を高めることができる。</p>

プログラムのカリキュラム									
履修科目	科目名	履修の要件	単年	Q1	Q2	Q3	Q4		
21401	言語研究入門	言語研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2~4	*					○
21402	文学研究入門	文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2~4		*				○
21416	比較文学入門	比較文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2~4			*			○
21417	言語認知科学入門	・認知科学における言語の位置付けを理解する。 ・認知科学を学ぶ上で基礎となる心理学の知識を学ぶ。	2~4			*			○